

ジョン・メイスフィールド

6 マザー・ケアリー

(甲板長から聞いた話)

- マザー・ケアリーが誰かって 魔女どもの生みの親さ
あの手のゴロツキみんなの親さ
見た目はべっぴんなんだが ^{くせもの} なかなかの曲者で
船に目がないときた
北のほうの氷山に住んでてな 5
かのデイヴィー・ジョーンズの連れ合いさ
水死した哀れな船乗りの骨で
額にかかる藻を ^す 梳くんだ
- あの魔女は沈没船の生みの親さ
ありとあらゆる暴風の生みの親さ 10
嵐のとき ^{みぞれ} 霽や雪が降るときゃ
何やら悪魔的なことをしでかすのさ
風の唸りはあいつの叫び
「あたしの大好物は 肉厚で若くてジューシーで
真鍮のボタンなんか付けた うまそうなりブを持つ海の若男 15
連れ合いと一緒にご馳走になるわ」
- あの魔女は飢えた老婆さ 恐ろしく残酷な老婆さ
俺たち船乗りにとっちゃな
船乗りたちにさんざん美味しいものを食わせたあげく
海の底で長い眠りにつかせるのさ 20
ありったけの船乗りの血を浴びて
溺れたやつらの骨を ^{むさぼ} 貪り
体にはフジツボをはりつけ
首にはサメの歯をぶら下げてるんだ
- 俺は学校なんて行ったこともねえし 25
おめえみたいに本も読めはしねえ
だがちゃんと知ってるんだ 良いこたあねえって
あの海の化け物二人を甘く見ちゃおしまいだ
おめえは若いし 騙されないと思ってるだろうが
もしおめえが老い骨になるまで長生きしたけりゃ 30

いいか 上手く舵切ってマザー・ケアリーは避けるんだ
そしてあのデイヴィー・ジョーンズもな

(三木菜緒美訳)